

日本藻類学会第 41 回大会 高知 2017



学会会長 奥田 一雄
大会会長 奥田 一雄

高知大学 朝倉キャンパス
(〒 780-8520 高知市曙町 2-5-1)

2017 年 3 月 23 日 (木) ～ 25 日 (土)

主催：日本藻類学会 後援：高知大学

1. 会場までの交通 (図 1 ～ 3)

- ・高知龍馬空港から車で約 45 分。空港連絡バスで約 35 分「はりまや橋」か、約 40 分「JR 高知駅」下車→バス、路面電車(とさでん交通) または JR 土讃線へお乗り換えください。
- ・はりまや橋から車で約 15 分。バスで約 20 分「朝倉高知大学前」下車。路面電車で約 30 分「朝倉(高知大学前)」下車すぐ
- ・JR 高知駅から車で約 20 分。バスで約 25 分「朝倉高知大学前」下車。路面電車で約 30 分「朝倉(高知大学前)」下車すぐ
- ・JR 土讃線下り 15 分「朝倉駅」下車徒歩 3 分
- ・なお、乗用車でのご来場はご遠慮ください。

2. 会 場 (図 4 ～ 6)

大会：高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟 2 号館・3 号館
編集委員会・評議員会：共通教育棟 2 号館 210 室

総会：共通教育棟 2 号館 212 室 (A 会場)

懇親会：三翠園 (高知市鷹匠町 1-3-35)

公開シンポジウム：共通教育棟 2 号館 212 室 (A 会場)

ワークショップ I：共通教育棟 2 号館 221 室

ワークショップ II：共通教育棟 2 号館 221 室 (講義編)，
理学部 1 号館 126 室 (実習編)

※高知大学生生活協同組合カフェテリアが 24 日(金)の昼食時は営業していますが、25 日(土)は休業します。

3. 宿 泊

会場の高知大学朝倉キャンパス周辺には宿泊施設がほとんどありませんが、大会準備委員会よりホテル等の斡旋は行いません。各自で高知市市街地などの宿泊施設をお調べいただき、お早めに手配をお願いいたします。

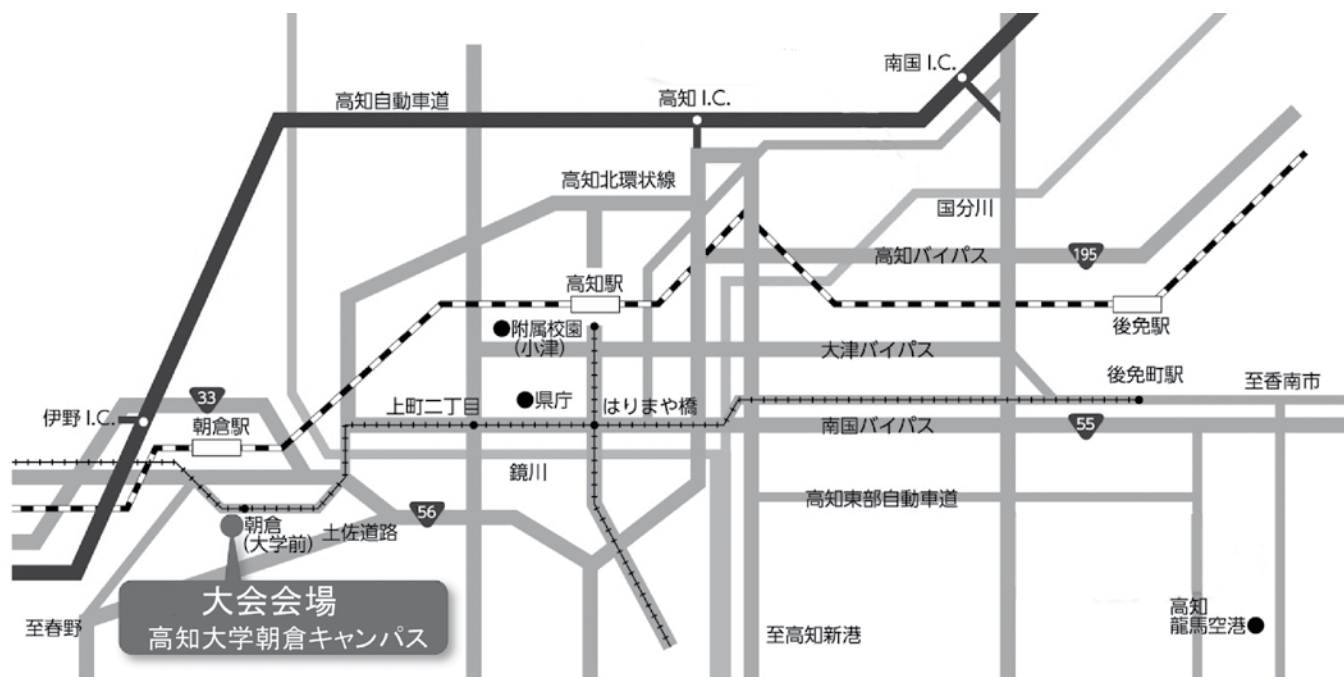


図 1 大会会場までの交通

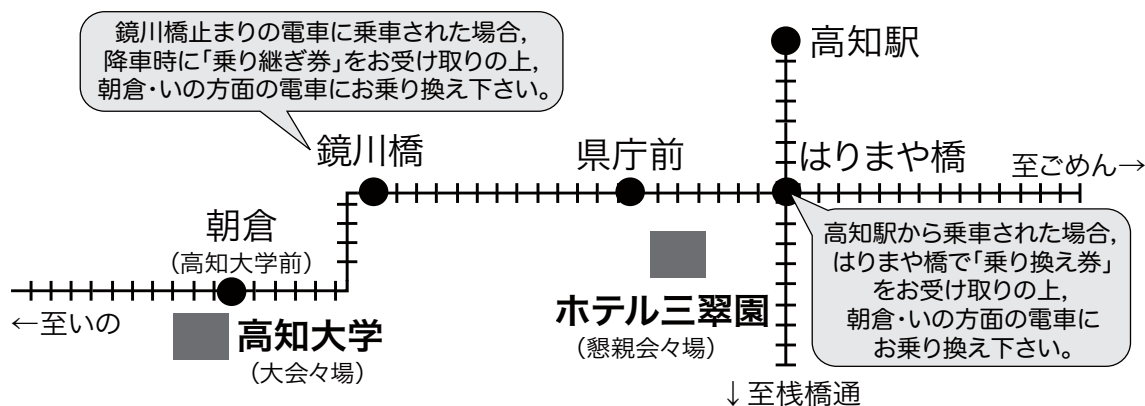


図 2 とさでん交通の路線

4. 日程

2017年3月23日(木)

- 15:00～16:30 編集委員会【共通教育棟2号館210室】
 ※評議員控室【共通教育棟2号館212室(A会場)】
 16:30～18:00 評議員会【共通教育棟2号館210室】
 16:30～18:30 ワークショップⅠ【共通教育棟2号館221室】

2017年3月24日(金)

- 9:00～12:10 口頭発表【共通教育棟2号館212室(A会場)・222室(B会場)】
 13:10～14:10 ポスター発表(奇数番号)【共通教育棟3号館310室(C会場)・311室(D会場)】
 14:20～16:20 口頭発表【A会場・B会場】
 16:30～17:30 総会【A会場】
 19:00～21:00 懇親会【三翠園】

2017年3月25日(土)

- 8:45～11:20 口頭発表【A会場・B会場】
 12:20～13:20 ポスター発表(偶数番号)【C会場・D会場】
 13:30～14:45 口頭発表【A会場・B会場】
 15:00～ 公開シンポジウム【A会場】
 15:00～ ワークショップⅡ(講義編)【共通教育棟2号館221室】

2017年3月26日(日)

- 9:00～ エクスカーション【高知大学総合研究センター
海洋生物研究教育施設】
 9:00～ ワークショップⅡ(実習編)【理学部1号館
126室】

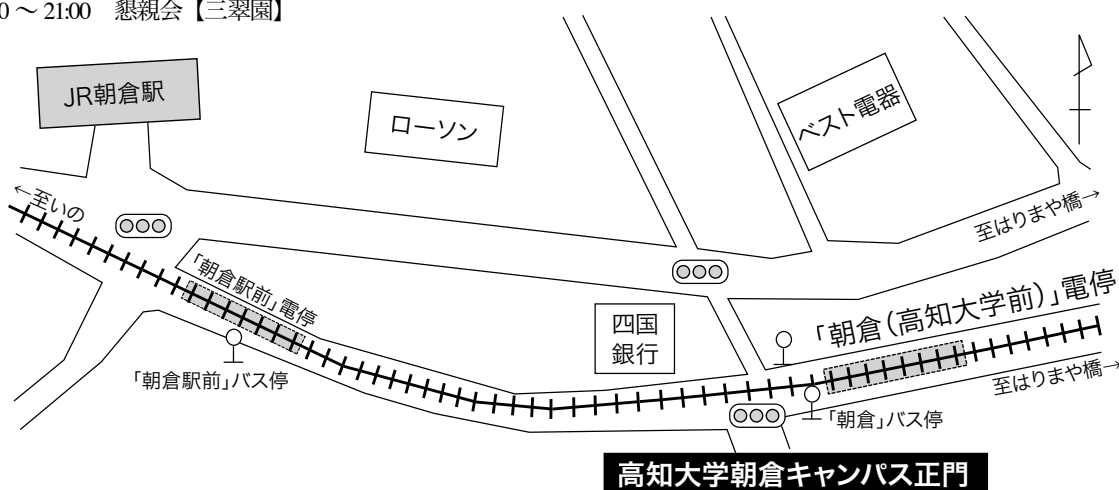


図3 朝倉キャンパス正門付近の地図

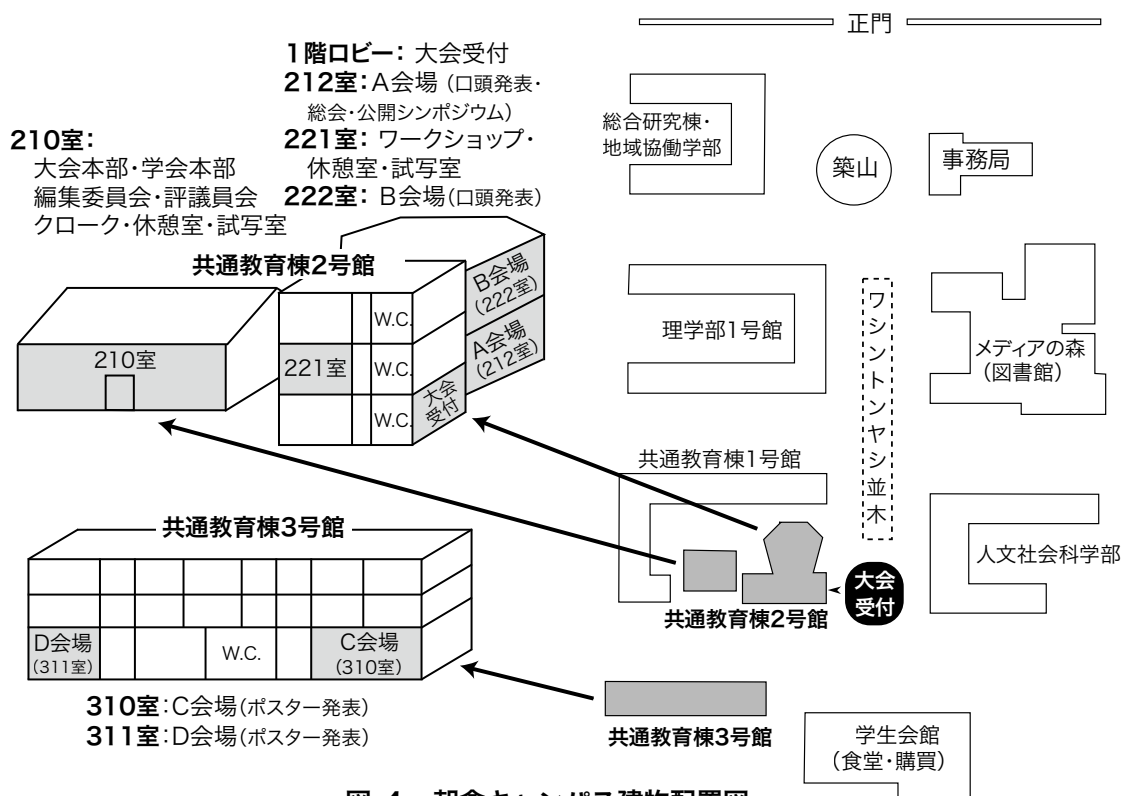
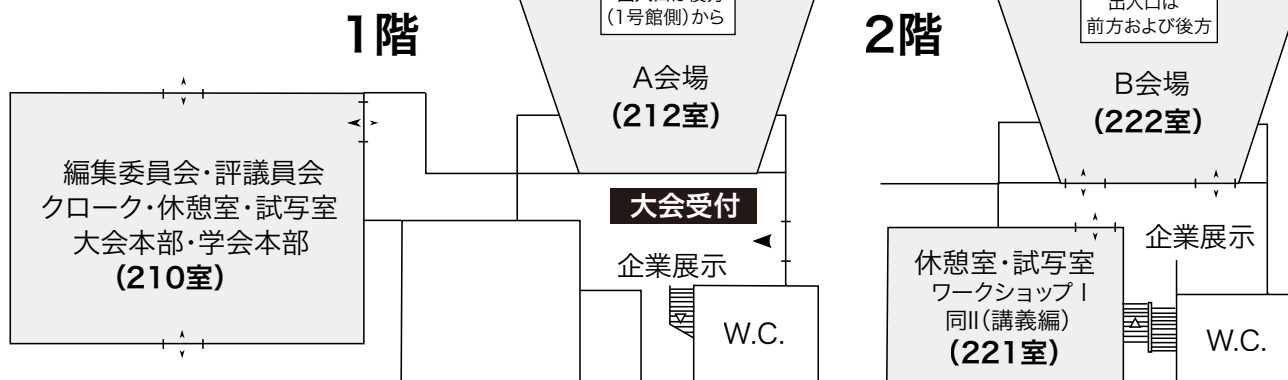


図4 朝倉キャンパス建物配置図

共通教育棟2号館



共通教育棟3号館 1階

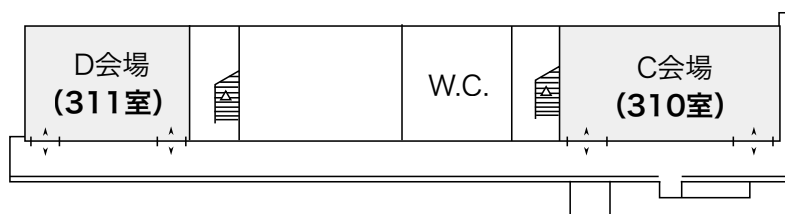


図 5 大会々場（共通教育棟 2 号館・3 号館）



図 6 懇親会々場の地図

5. 参加受付(共通教育棟 2 号館 1 階ホール;図4)

受付時間：3 月 24 日 (金) 8:00 ～ 17:00

3 月 25 日 (土) 8:00 ～ 15:00

当日参加申込みを受け付けます。

大会参加費：6,000 円 (学生 4,000 円)

懇親会費 (残席がある場合のみ):6,000 円 (学生 4,000 円)。

6. クローク (共通教育棟 2 号館 210 室 ; 図4)

以下の時間, お荷物 (ただし, 貴重品は除く) をお預かりします。

3 月 24 日 (金) 8:00 ～ 17:00

3 月 25 日 (土) 8:00 ～ 17:30

7. 編集委員会および評議員会 (図4)

編集委員会：3 月 23 日 (木) 15:00 ～ 16:30

評議員会：同 16:30 ～ 18:00

会場：編集委員会【共通教育棟 2 号館 210 室】
評議員会【同上】

※評議員控室【共通教育棟 2 号館 212 室 (A 会場)】

8. 発表形式

(1) 口頭発表

時 間：発表 12 分, 質疑応答 3 分です (1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分, 3 鈴 15 分)。

機 器：

- ・発表者のパソコンにつないだ液晶プロジェクターで発表していただきます (OHP は使用できません)。各自でパソコンをご用意下さい (ご自身のパソコンを用意できない方は, あらかじめ準備委員会にご相談ください)。
- ・使用する液晶プロジェクターは切替器のミニ Dsub15 ピン外部出力コネクタを介してパソコンに接続されます。多くのパソコンはこのコネクタで接続できますが, アップル社製パソコン, あるいは DVI や HDMI 接続端子しか持たないパソコンを使用する場合は各自で接続アダプター, 変換アダプター等をご用意下さい。
- ・パソコンのバッテリーだけでは液晶プロジェクターに出力できない場合がありますので, パソコンに電源がとれるよう, 電源ケーブルをご用意ください。
- ・万一来場, 発表用ファイルをコピーした USB メモリをお持ち下さい。発表用ファイルに静止画, 動画, グラフ等のデータをリンクさせている場合は, それらのデータも USB メモリに保存して下さい。
- ・ご自分のパソコンを用意できない方は, あらかじめ準備委員会にご相談ください。

次演者の待機：次演者は次演者席でパソコンに電源をとり, OS を立ち上げてください。切替器の空いているラインにパソコンを接続して待機して下さい。前演者の講演が終わり次第, 次演者はご自身で切替器のスイッチを切り替えます。パソコンのミラーリングの操作はスイッチの切替後に行ってください。

事前の動作確認：会場内に試写室を設けますので, 事前の動作確認にご利用ください。

(2) ポスター発表

サイズ：ポスター用のパネルの大きさは, 縦 180 cm, 横 90 cm です。

貼付用具：ピンまたはテープを大会準備委員会で準備します。

必要記載事項：ポスターの上部に発表番号, 表題, 氏名 (所属) を記入して下さい。

構 成：目的, 実験 (観察) 方法, 結果, 考察, 結論について, それぞれ簡潔にまとめた文章をつけて下さい。

写真・図表：それぞれに簡単な説明文を添付して下さい。

フォント・図表サイズ：少し離れた場所からでも判読できるようにご配慮ください。

掲示時間：3 月 24 日 (金) 8:30 から掲示できます。12 時頃までに所定の場所に掲示し, 25 日 (土) 15 時頃までに撤収して下さい。

9. 公開シンポジウム「高知・四国の藻類」

大会では「高知・四国の藻類」と題して, 大会参加者と一般市民の皆さんを対象にしたシンポジウムを開催します。愛媛県総合博物館の小林 真吾氏には愛媛県内の藻類フロアの基礎をまとめた八木繁一氏, オキチモズク, そして RDB 刊行など淡水藻類の調査研究・普及を進める博物館の取り組みをご紹介します。高知大学海洋生物研究教育施設の田中 幸記氏には高知県全域の調査に基づく藻場の長期的な変化と高知県内での磯焼け対策について, また, 平岡 雅規氏には四国や他国のアオノリおよび最近の天然群落の状況と生産利用についてそれぞれお話し頂きます。皆様のご来場をお待ちしています。

日 時：2017 年 3 月 25 日 (土) 15:00 ～ 17:00

会 場：高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟 2 号館 212 室
講演者と演題：

小林 真吾 (愛媛県総合科学博物館)「愛媛の水辺に藻影を追いかけて」

田中 幸記 (高知大学総合研究センター)「変わりゆく高知の藻場と磯焼け対策の取り組み」

平岡 雅規 (高知大学総合研究センター)「あなたの知らない青海苔の世界」

※講演要旨は p. 87-89 をご覧下さい。

10. 藻類学ワークショップ

以下の 2 つのワークショップを実施します。

ワークショップ I 「原生生物学会出張ワークショップ：原生生物学会的藻類学研究の紹介」

目的：藻類学会とともに日本の真核微生物に関する研究を牽引してきた日本原生生物学会に所属する若手研究者に最新の研究成果を紹介していただき, 両学会のますますの繁栄と交流のきっかけにしたいと考えています。

プログラム：

16:30 ～ 16:40 趣旨説明 (矢吹 彬憲)

16:40 ～ 17:05 ヌクレオモルフ研究 10 年の進歩 - わかったこと, わからないこと, そして今後 - (谷藤 吾朗)

17:05 ～ 17:30 纖毛虫コルポータにおけるクリプトバイオシスの分子機構 (有川 幹彦)

17:30 ～ 17:40 休憩

17:40 ～ 18:05 ケイソウの滑走運動 (山岡 望海)

18:05 ～ 18:30 纖毛虫テトラヒメナの二種類の核を分ける核膜孔複合体の構造と動態 (岩本 政明)

※講演要旨は p. 86 をご覧下さい。

日 時：3月23日（木）16:30～18:30
 場 所：共通教育棟2号館221室（図4, 5）
 参加費：無料
 定 員：50名程度（先着順，非会員も対象とします）
 申込み方法：事前申込不要
 問合せ・連絡先：海洋研究開発機構 矢吹 彬憲（yabukia@jamstec.go.jp）

ワークショップII「クロレラと気生藻の魅力ー採集・観察から分類・バイオマス生産」

内 容：古くから光合成研究に使われ，藻類バイオマスとしても注目されているクロレラ，そして陸上の様々な基物表面や地衣共生藻といったユニークで過酷な環境に見事に適応している気生藻について，講義編と実習編に分けて，ワークショップを開催します。講義編では，複数の講師の方々に，分類，生態，バイオマス生産，カルチャーコレクションなどの観点から，クロレラと気生藻の魅力について語っていただくとともに，調査・採取方法についても時間の許す限りご紹介いたします。実習編では，高知大学構内や近隣の自然環境にて採取・観察を行った後に，実験室にて採取したサンプルの顕微鏡観察や培養処理等を行う予定です。

講 師：半田 信司，大田 修平，保科 亮，河地 正伸
 日 時：3月25日（土）15:00～（講義編），3月26日（日）9:00～16:00頃（実習編）
 場 所：共通教育棟2号館221室（講義編），理学部1号館126室（実習編）（図4, 5）
 参加費：講義編は無料，実習編は食費と交通費を実費負担
 問合せ・連絡先：国立環境研究所 河地 正伸（kawachi.masanobu@nies.go.jp）

11. エクスカーション

会 場：高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設（土佐市宇佐町井尻194）[<http://www.kochi-u.ac.jp/kaiyo/>]

日 時：3月26日（日）10:00 集合
 午前：実習船にて白の鼻に移動，磯採集
 午後：施設に戻り，昼食後，試料の観察および標本作成
 会場への交通：路線バスが利用できます。次のURLの土佐電交通Webサイトの19宇佐線の時刻表をご覧ください[<http://www.tosaden.co.jp/bus/rosen/timetable/>]（「宇佐」バス停の4つ前「宮前スカイライン入口」から同施設まで徒歩約10分です）。また，高知大学朝倉キャンパスと同施設とのシャトルバス（1往復）を運行します（往路9:00朝倉キャンパス発，復路17:00同施設発；所要時間約40分；利用無料）。
 問合せ・連絡先：海洋生物研究教育施設 平岡 雅規（mhiraoka@kochi-u.ac.jp）

12. レクリエーション

藻類学会会員の親睦を深めるため，テニス大会を以下のように企画しています。参加希望者はご連絡下さい。

日 時：2017年3月23日（木）10:00～16:00
 場 所：高知大学朝倉キャンパス内テニスコート
 連絡先：国立環境研究所 山口 晴代（yamaguchi.hariyo@nies.go.jp）

13. 会場内でのWi-Fiの利用

大会期間中，会場にて大学の無線LAN（Wi-Fi）を利用できます。接続に必要な情報は会場にて参加者にお伝えします。

14. 問い合わせ先

〒780-8520 高知市曙町2-5-1
 高知大学理学部1号館324室
 日本藻類学会第41回大会 準備委員会 峯 一朗
 電話：088-844-8309（直通）FAX：088-844-8356（代表）
 電子メール：jsp2017@kochi-u.ac.jp
 お問い合わせはできるだけ電子メールでお願いします。



日本藻類学会第 41 回大会講演プログラム

3月24日（金）午前の部

9:00 – 12:10 口頭発表

A 会場（2 号館 212 室）		B 会場（2 号館 222 室）	
9:00	A01 日本産褐藻カヤモノリ (<i>Scytosiphon lomentaria</i>) 同胞種間における生殖隔離機構 ○星野 雅和・石川 彰造・小亀 一弘（北海道大・院・理）	B01 ラビリンチュラ類 <i>Thraustochytrium globosum</i> の分類～新属 <i>Monorhizochytrium</i> の設立～ ○土井 耕作 ^{1,2} ・本多 大輔 ^{2,3} （ ¹ 甲南大・院・自然科学, ² 甲南大・統合ニューロ研, ³ 甲南大・理工）	
9:15	A02 Morphology and phylogeny of two new <i>Hydroclathrus</i> species (Scytosiphonaceae, Phaeophyceae) from the Northern Pacific ○Wilfred John E. Santiañez ¹ ・Kyung Min Lee ^{2,6} ・Paul John L. Geraldino ³ ・Shinya Uwai ⁴ ・Akira Kurihara ⁵ ・Edna T. Ganzon-Fortes ⁷ ・Sung Min Boo ² ・Kazuhiro Kogame ⁸ （ ¹ Dept. Nat. Hist. Sci, Grad. Sch. Sci., Hokkaido Univ.; ² Dept. Biol., Chungnam Natl. Univ.; ³ Dept. Biol., Univ. San Carlos, ⁴ Fac. Sci., Niigata Univ.; ⁵ Fac. Agri., Kyushu Univ.; ⁶ Univ. Oulu; ⁷ Mar. Sci. Inst., Univ. Philippines; ⁸ Fac. Sci., Hokkaido Univ.）	B02 <i>Parietichytrium</i> 属（ラビリンチュラ類）で観察された遊走細胞間の融合と有性生殖の関連性 ○石橋 真由 ¹ ・佐藤 正和 ¹ ・上田 真由美 ^{1,2} ・包 栄梅 ³ ・沖田 裕司 ⁴ ・本多 大輔 ^{3,2} （ ¹ 甲南大・院・自然科学, ² 甲南大・統合ニューロ研, ³ 甲南大・理工, ⁴ 日水中研）	
9:30	A03 Morphological and phylogenetic analysis of the Japanese <i>Chondria tenuissima</i> (Rhodomelaceae, Rhodophyta) ○Suttikarn Sutti ¹ ・Masaya Tani ¹ ・Yukimasa Yamagishi ² ・Tsuayoshi Abe ³ ・Kazuhiro Kogame ¹ （ ¹ Graduate School of Science, Hokkaido Univ., ² Fac. of Life Science and Biotechnology, Fukuyama Univ., ³ University Museum, Hokkaido Univ.）	B03 ラビリンチュラ類の外質ネットの形態とセルラーゼ分泌との関係性 ○岩田 いづみ ^{1,2} ・本多 大輔 ^{2,3} （ ¹ 甲南大・院・自然科学, ² 甲南大・統合ニューロ研, ³ 甲南大・理工）	
9:45	A04 佐渡におけるアカモク集団の成熟時期の多型と遺伝的構造の関係について 本間 由莉 ¹ ・奥田 修二郎 ² ・笠原 賢洋 ³ ・高橋 文雄 ³ ・吉川 伸哉 ⁴ ・○上井進也 ¹ （ ¹ 新潟大・理, ² 新潟大・医歯, ³ 立命館大・生命科学, ⁴ 福井県立大・海洋）	B04 セスジアカムカデ中のグレガリナ様寄生虫における非光合成性色素体 ○宮田 凌佑 ¹ ・松尾 恵梨子 ¹ ・中山 卓郎 ² ・谷藤 吾朗 ³ ・千頭 康彦 ¹ ・八畑 謙介 ⁴ ・橋本 哲男 ^{1,4,5} ・稲垣 祐司 ^{1,5} （ ¹ 筑波大院・生命環境, ² 東北大・生命科学, ³ 国立科学博物館・動物研究部, ⁴ 筑波大・生命環境系, ⁵ 筑波大・計算科学セ）	
10:00–10:05		休憩	
10:05	A05 中国の黄海と東シナ海産ホンダワラ属の分類学的再検討 ○孫忠民 ¹ ・黄超華 ¹ ・高大海 ¹ ・姚建亭 ¹ ・胡自民 ¹ ・李宇航 ¹ ・王永強 ¹ ・陳万東 ² （ ¹ 中国科学院・海洋研究所, ² 南麂列島自然保護区管理局）	B05 日本産海藻付着藍藻「イワヒゲノコブ」の分類学的再検討 ○福岡 将之・鈴木 秀和・田中 次郎（海洋大・院・藻類）	
10:20	A06 褐藻ニセフトモズク（広義シオミドロ目）の分類の再検討 ○川井 浩史 ¹ ・羽生田 岳昭 ¹ ・孫 忠民 ² ・Akira F. Peters ³ （ ¹ 神戸大・内 海域, ² Institute of Oceanology, Chinese Academy of Sciences, Qingdao, China, ³ Bezhin Rosko, France）	B06 陸棲藍藻 <i>Nostoc commune</i> （イシクラゲ）の遺伝子型と化学型が一致する ○坂本 敏夫 ^{1,2} ・坂本 香織 ³ ・橋本 茜 ² ・橋本 伸太郎 ² ・和田 直樹 ^{1,2} ・松郷 誠一 ^{1,2} （ ¹ 金沢大・理工・自然システム, ² 金沢大院・自然科学・自然システム, ³ 金沢工大・バイオ・化学・応用バイオ）	
10:35	A07 アントクメの系統地理学的解析 ○秋田 晋吾 ^{1,2} ・小祝 敬一郎 ³ ・羽生田 岳昭 ⁴ ・近藤 秀裕 ³ ・廣野 育生 ³ ・藤田 大介 ¹ （ ¹ 海洋大・院・応用藻類, ² JPSP DC1, ³ 海洋大・院・ゲノム科学, ⁴ 神戸大・内 海域セ）	B07 新規に分離された単細胞緑藻の分類学的考察 ○今城 葉月 ¹ ・仲田 崇志 ^{2,3} ・Nor Hafizah Jumat ⁴ ・泉田 仁 ⁵ ・神川 龍馬 ^{6,7} ・宮下 英明 ^{6,7} （ ¹ 京大・総人, ² 慶大・先端生命研, ³ 慶大・政策メディア・先端生命, ⁴ MC Biotech, ⁵ バイオジェニック, ⁶ 京大院・人環, ⁷ 京大院・地球環境）	
10:50	A08 無性生殖型ササバアヤギヌの起源 ○神谷 充伸 ¹ ・佐波 恵理加 ¹ ・John West ² （ ¹ 福井県大・海洋生物, ² University of Melbourne）	B08 モデル <i>Chlamydomonas</i> と群体性オオヒゲマワリ類（緑藻綱）の複数遺伝子系統解析 ○仲田 崇志・富田 勝（慶大・政策メディア・先端生命, 同・先端生命研）	

11:05–11:10	休憩
11:10 A09 Effects of temperature and PAR on the photosynthesis of <i>Kappaphycus</i> sp. (Solieriaceae, Rhodophyta) from Okinawa, Japan as the northern limit of native <i>Kappaphycus</i> distribution in the western Pacific ○Iris Ann Borlongan¹・Gregory N. Nishihara²・Satoshi Shimada³・Ryuta Terada¹ (¹ United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, ² Institute for East China Sea Research, Organization for Marine Science and Technology, Nagasaki University, ³ Division of the Natural/Applied Sciences, Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University) 11:25 A10 真正紅藻類で見られる雌性配偶体による果胞子体への栄養投資の進化についての数理的研究 ○別所 和博^{1,2}・大槻 久¹・佐々木 顕¹ (¹ 総合研究大学院大学, ² 学術振興会特別研究員 PD) 11:40 A11 汽水産緑藻 <i>Ulva prolifera</i> の Na⁺ に依存した成長とリン酸の取り込みについて ○井阪 若菜¹・大西 美輪¹・羽生田 岳昭²・市原 健介^{3,4}・山崎 誠和³・石崎 公庸¹・深城 英弘¹・河野 重行³・川井 浩史²・新免 輝男³・三村 徹郎¹ (¹ 神戸大・生物, ² 神戸大・内海域セ, ³ 東京大・先端生命, ⁴ JSPS・PD, ⁵ 兵庫県立大・生命) 11:55 A12 緑藻アオノリ 2 種のゲノム解読と雌雄ゲノムの比較による性決定領域の解析 ○市原 健介^{1,2}・山崎 誠和¹・宮村 新一³・桑野 和可⁴・河野 重行¹ (¹ 東京大・院・新領域・先端生命, ² JSPS・PD, ³ 筑波大・生命環境, ⁴ 長崎大・水産)	B09 タイ王国産最大級ボルボックスと最小ボルボックス？ ○野崎 久義¹・Wutipong Mahakham²・Sujeephon Athibai²・田草川 真理^{3,4}・三角 修己^{3,4}・河地 正伸⁵ (¹ 東京大・理・生物, ² コンケン大・理・生物, ³ 山口大・創成科学, ⁴ JST・CREST, ⁵ 国立環境研・生物・生態系環境研究センター) B10 緑藻ボルボックス系列の多細胞化初期におけるダイナミン様タンパク質 DRP1 の比較解析 ○新垣 陽子¹・宮城島 進也²・豊岡 博子¹・野崎 久義¹ (¹ 東大・院理, ² 遺伝研・細胞遺伝) B11 ピレノイド形態変化の著しい <i>Chloromonas reticulata</i> (緑藻綱) 近縁種における <i>rbcS</i> 配列の解析 ○牧野 朋代¹・鈴木 重勝²・松崎 令²・山口 晴代²・河地 正伸²・野崎 久義¹ (¹ 東京大・理・生物, ² 国立環境研・生物生態環境系セ) B12 氷雪性緑藻 <i>Chloromonas nivalis</i> とされている培養株の分類学的再検討 ○松崎 令¹・野崎 久義²・河地 正伸¹ (¹ 国立環境研究所, ² 東大・理・生物)

12:10 – 13:10 昼休み

3月24日(金) 午後の部

13:10 – 14:10 ポスター発表 (奇数番号)

C 会場 (3号館 310室) P01 ~ P50

- P01** Molecular Phylogeny and Barcoding of *Ulva* (Ulvales, Chlorophyta) reviews cryptic diversity in temperate China
 Dahai Gao・Zhongmin Sun・Chaohua Huang・Jianting Yao (Institute of Oceanology, Chinese Academy of Sciences)
- P03** 小笠原の深所から採集された褐藻ケヤリモ目の新種について
 ○北山 太樹¹・羽生田 岳昭² (¹ 国立科博, ² 神戸大)
- P05** 千葉県勝浦市で確認された稀産紅藻ヒメツカサノリの報告
 ○柴田 健介¹・菊地 則雄² (¹ 愛媛植物研究会, ² 千葉海の博物館)
- P07** 日本各地の汽水環境におけるスジアオノリ (*Ulva prolifera*) の遺伝子型と生殖細胞の走光性の違い
 ○小川 拓・神谷 充伸 (福井県大・院・海洋生物)
- P09** 緑藻類 *Ulva pertusa* の栄養塩吸収速度と流速の関係
 ○大崎 幸一¹・大竹 正弘²・土屋 健司¹・Gregory N. Nishihara³・井上 幸男⁴・戸田 龍樹² (¹ 創価大・理工, ² 創価大・院・工, ³ 長崎大・環東シナ海セ, ⁴ 長崎大・院・水環)
- P11** 東北地方太平洋沿岸における黄緑藻綱フシナシミドロ属の生育
 ○菊地 則雄¹・平野 弥生^{1,2}・大越 健嗣² (¹ 千葉海の博物館, ² 東邦大)
- P13** 環境省モニタリングサイト 1000 沿岸域調査における藻場のモニタリング 2016 年の成果
 ○寺田 竜太¹・川井 浩史²・倉島 彰³・坂西 芳彦⁴・島袋 寛盛⁵・太齋 彰浩⁶・田中 次郎⁷・村瀬 昇⁸・本村 泰三⁹・青木 美鈴¹⁰・山下 友実¹⁰ (¹ 鹿大・院・連農, ² 神戸大・内海域セ, ³ 三重大・院・生資, ⁴ 日本海水研, ⁵ 瀬戸水研, ⁶ 南三陸町, ⁷ 海洋大・院・海洋科学, ⁸ 水大校, ⁹ 北大・北方セ, ¹⁰ 日本国際湿地保全連合)
- P15** 着生基盤の設置期間と植食性巻貝が海藻の入植に与える影響
 ○鈴木 はるか・久保 祐貴・青木 優和・吾妻 行雄 (東北大・院・農)
- P17** 人工衛星リモートセンシングを活用した富山県西部海域におけるアマモ場分布域推定の試み
 ○松村 航¹・寺内 元基¹・前田 経雄² (¹ 環日本海環境協力センター, ² 富山県庁)

- P19** 佐渡海峡沿岸における海草群落の分布下限水深と光環境について
 ○坂西 芳彦¹・小松 輝久² (¹水産機構・日本海区水産研究所, ²東大・大気海洋研)
- P21** 褐藻ワカメの光合成色素と色彩に対する栄養塩濃度・水温・光量の複合作用
 ○遠藤 光^{1,2}・奥村 裕³・佐藤 陽一⁴・吾妻 行雄¹ (¹東北大・院・農, ²現: 鹿大・水, ³水産機構・東北水研, ⁴理研食品 (株))
- P23** 三重県におけるヒジキの生産構造の季節変化
 ○野北 悠輔¹・岩尾 豊紀²・岩出 将英³・中西 尚文⁴・倉島 彰¹ (¹三重大院・生物資源, ²鳥羽水研, ³三重水研, ⁴三重県尾鷲農林水)
- P25** スサビノリおよびタネガシマアミノリの生長と光合成に及ぼす温度の影響
 ○阿部 真比古¹・村瀬 昇¹・玉城 泉也²・藤吉 栄次²・小林 正裕³ (¹水産機構水大校, ²水産機構西海水研, ³水産機構中央水研)
- P27** 三重県伊勢市におけるソメワケアミノリの季節消長
 ○倉島 彰¹・西尾 伸敏²・野北 悠輔¹ (¹三重大院・生物資源, ²三重大・生物資源)
- P29** 富士五湖における最近の車軸藻類の分布状況
 上嶋 崇嗣¹・中村 誠司¹・加藤 将²・坂山 英俊³・芹澤 (松山) 和世⁴・○芹澤 如比古⁴ (¹山梨大・院・教育, ²WII, ³神戸大・院・理, ⁴山梨大・教育)
- P31** 千葉県館山市坂田における紅藻トサカノリの標識藻体およびカゴ内移植藻体の観察
 ○陳 柏原・秋田 晋吾・町田 真一・早川 雄飛・川田 健太・山野 旬郎・藤田 大介 (東京海洋大・応用藻類)
- P33** 与論島産シマチスジノリにおけるシャントランシア期の光合成に対する光と温度の影響
 ○小園 淳平¹・Gregory N. Nishihara²・遠藤 光¹・寺田 竜太³ (¹鹿大・水, ²長大・環シナ海セ, ³鹿大・院・連農)
- P35** ミナミアオノリ (*Ulva meridionalis*) の迅速¹³C 標識
 ○椿 俊太郎¹・平岡 雅規² (¹東京工業大学物質理工学院, ²高知大学海洋生物研究教育施設)
- P37** 培養水中の栄養塩濃度の影響による海藻の有用成分含量の変化
 ○城内 智行¹・上田 守男¹・平岡 雅規²・柳橋 邦生³・上田 貴夫⁴ (¹九環協, ²高知大学, ³竹中工務店, ⁴海洋環境創生機構)
- P39** 関東地方周辺で絶滅あるいは消息不明の可能性のある海藻
 ○鈴木 雅大¹・北山 太樹²・菊地 則雄³・阿部 剛史⁴・小亀 一弘⁵・宮田 昌彦³ (¹神戸大・内海域セ, ²国立科博, ³千葉県立中央博物館, ⁴北海道大総合博物館, ⁵北海道大・院理)
- P41** 海産混合栄養性渦鞭毛藻の一新種の系統分類学的研究
 ○横内 洸¹・大沼 亮²・堀口 建雄³ (¹北大・理, ²遺伝研・細胞遺伝, ³北大・院理)
- P43** 沖縄の気生環境で見つかった紅藻, 褐藻および緑藻の日本新産種
 ○半田 信司¹・溝淵 綾¹・中原 - 坪田 美保²・坪田 博美³ (¹広島県環境保健協会, ²千葉中央博・共同研究員, ³広島大・院・理)
- P45** 唐原川河口 (福岡県和白干潟) の珪藻
 ○木嶋 久美子¹・堺 真砂美²・川上 満康³・天田 啓³ (¹福工大院工生環, ²福工大総研, ³福工大工生環)
- P47** 光合成をしない無色珪藻 *Nitzschia* の 3 次元構造
 三浦 遥菜¹・石井 健一郎²・神川 龍馬^{2,3}・○真山 茂樹¹ (¹東学大・生物, ²京大・院地環, ³京大・院人環)
- P49** パルマ藻株 *Triparma retinervis* の確立により示された珪質型パルマ藻の非単系統性
 ○山田 和正¹・山崎 誠司²・佐藤 晋也²・吉川 伸哉²・桑田 晃³・一宮 睦雄¹ (¹熊本県大・環境共生, ²福井県大・海洋生物, ³水産機構・東北水研)

D 会場 (3 号館 311 室) P51 ~ P88

- P51** 2-methylisoborneol (2-MIB) を産生する *Pseudanabaena* 属の新種, *P. cinerea* と *P. yagii*
 ○新山 優子・辻 彰洋 (国立科学博物館植物研究部)
- P53** Terrestrial black filamentous cyanobacterium IRH12 isolated from Iriomote Island
 ○Xuan Hoa Nguyen¹・Shinpei Sumimoto^{1,2}・Thi Tra My Nguyen¹・Handung Nuriyadi¹・Shoichiro Suda³ (¹Grad. Sc. Eng. Sci. Univ. Ryukyus, ²Fac. Sci. Tech. Keio Univ., ³Fac. Sci. Univ. Ryukyus)
- P55** シアノバクテリア食 *Heterolobosea* アメーバの研究
 ○松田 知樹・加山 基・柏山 祐一郎 (福井工大)
- P57** Seasonal pico-phytoplankton composition in Sesoko Island, Okinawa, with emphasis on the genus *Micromonas*
 ○Thi Tra My Nguyen¹・Tomohide Anahara²・Michihiro Ito^{3,4}・Naoko Okada⁴・Satoshi Wakaoji⁴・Toru Maruyama⁴・Yoshikatsu Nakano³・Hiroyuki Fujimura²・Haruko Takeyama⁴・Shoichiro Suda² (¹Grad. Sc. Eng. Sci. Univ. Ryukyus, ²Fac. Sci. Univ. Ryukyus, ³Trop. Bios. Cen. Univ. Ryukyus, ⁴Waseda Univ)
- P59** 富栄養化した湖沼に出現するクリプトモナス属の種組成とその季節変化
 ○程木 義邦・西野 寛志・大林 夏湖・中野 伸一 (京都大学生態学研究センター)
- P61** 多摩川の河口干潟における珪藻群集
 ○田口 芳彦・真山 茂樹 (東京学芸大学)
- P63** ラビリンチュラ類に対する CARD-FISH 法による検出法の検討
 ○森 留菜¹・庄野 孝範¹・浜本 洋子^{2,4}・桑田 晃³・本多 大輔^{1,4} (¹甲南大・理工, ²甲南大・院・自然科学, ³水産機構・東北水研, ⁴甲南大・統合ニューロ研)
- P65** 日本とベトナムにおけるアザスピロ酸産生渦鞭毛藻 *Azadinium poporum* の初出現
 ○高橋 和也¹・Nguyen Van Nguyen²・Dao Viet Ha³・鈴木 敏之⁴・福代 康夫¹・岩滝 光儀¹ (¹東京大・アジアセンター, ²Research Institute for Marine Fisheries, Vietnam, ³Institute of Oceanography, Vietnam Academy of Science and Technology, Vietnam, ⁴水産機構中央水研)

- P67** 海産緑藻フトジズモの動接合子と遊走子における眼点と鞭毛の配列と同調的鞭毛運動
○宮村 新一¹・南雲 保² (¹筑波大・生命環境, ²日本歯科大・生物)
- P69** 汽水産珪藻 *Pseudotaurosira* の被殻を裏打ちする有機層の構造的, 生化学的特徴
○中村 憲章¹・真山 茂樹²・佐藤 晋也¹ (¹福井県大・院・海洋生物, ²東学大・生物)
- P71** 有中心粒太陽虫ハリタイヨウチュウの細胞外被殻の構造と形成機構
○千原 あかね・洲崎 敏伸 (神戸大・院・理)
- P73** 明暗周期条件における珪藻 *Phaeodactylum tricornutum* の脂質生産応答
○片山 智代¹・堀 正成²・佐藤 光秀¹・高橋 一生¹・古谷 研¹ (¹東京大・院・農, ²東京大・農)
- P75** 微細藻類食 *Paracercomonas* sp. KMO002 株のクロロフィル分解代謝に関する研究
○加山 基・柏山 祐一郎 (福井工大)
- P77** 陸棲藍藻 *Nostoc commune* (イシクラゲ) の細胞外マトリクスにおける抗酸化システム
○坂本 香織¹・坂本 敏夫² (¹金沢工大・バイオ・化学・応用バイオ, ²金沢大・理工・自然システム)
- P79** RNA-seq 解析により明らかにする細胞内共生性渦鞭毛藻のストレス応答
○湯山 育子¹・池尾 一穂² (¹筑波大学・生命環境系, ²国立遺伝学研究所・遺伝情報分析)
- P81** 放射性セシウムによるラン藻イシクラゲのストレス応答遺伝子発現の変化
○佐々木 秀明¹・玉置 久志¹・佐藤 健二²・竹中 裕行³ (¹いわき明星大・科学技術, ²日本大・工, ³マイクロアルジェ)
- P83** グリーンヒドラの共生クロレラ *Chlorella* sp. A99 のゲノム解説
○濱田 麻友子^{1,2}・Konstantin Khalturin²・Katja Schröder³・新里 宙也²・Thomas C.G. Bosch³・佐藤 矩行² (¹岡山大学・臨海実験所, ²沖縄科学技術大学院大学, ³Kiel University)
- P85** 毒性評価試験の基準緑藻 *Pseudokirchneriella subcapitata* のゲノム解析
○鈴木 重勝¹・山口 晴代¹・中嶋 信美¹・河地 正伸 (国立環境研究所)
- P87** 構内ビオトープ池を用いた微細藻類に着目した環境教育教材の開発
○幡野 恭子¹・田中 学²・野口 哲子¹ (¹京都大・院・人環, ²北里大・医)

14:20 – 16:20 口頭発表

A 会場 (2 号館 212 室)		B 会場 (2 号館 222 室)	
14:20	A13 藻場から磯焼け域における無節サンゴモの生育種と分布 ○加藤 亜記 ¹ ・馬場 将輔 ² ・島袋 寛盛 ³ ・吉田 吾郎 ³ ・目崎 拓真 ⁴ ・中地 シュウ ⁴ (¹ 広島大, ² 海生研, ³ 瀬戸内水研, ⁴ 黒潮研)	B13 クロララクニオン藻に近縁な無色ケルコゾア生物の分類学的研究 ○加藤 雄大 ¹ ・白鳥 峻志 ¹ ・石田 健一郎 (筑波大・院・生命環境)	
14:35	A14 温暖化の藻場への影響とその機構に関する 1 考察 – 地理的な環境勾配に沿った実験から – ○吉田 吾郎 ¹ ・島袋 寛盛 ¹ ・村瀬 昇 ² ・河野 芳巳 ³ ・加藤 亜記 ⁴ ・郭新宇 ⁵ ・吉江 直樹 ⁵ (¹ 瀬戸水研, ² 水大校, ³ 愛媛水セ, ⁴ 広島大, ⁵ 愛媛大)	B14 Phylogeny and Evolution of Basal Stramenopiles ○Rabindra Thakur・Takashi Shiratori・Ken-ichiro Ishida (University of Tsukuba, Life and Environmental Sciences)	
14:50	A15 過去 30 年に瀬戸内海から黒潮沿岸域の藻場生態系に生じた変化, その要因や時期をモデル再現水温から推測する ○島袋 寛盛 ¹ ・吉田 吾郎 ¹ ・郭新宇 ² ・吉江 直樹 ² ・村瀬 昇 ³ ・野田 幹雄 ³ ・清本 節夫 ⁴ ・吉村 拓 ⁴ ・河野 芳巳 ⁵ (¹ 瀬水研, ² 愛大沿岸セ, ³ 水大校, ⁴ 西水研, ⁵ 愛媛県水産セ)	B15 共生者分裂率をめぐる宿主と細胞内共生者の共進化 ○内海 邑 ¹ ・大槻 久 ¹ ・佐々木 顕 (総研大・先端研)	
15:05	A16 山口県日本海沿岸における 2013 ~ 2016 年の藻場の状況 ○村瀬 昇 ¹ ・阿部 真比古 ¹ ・野田 幹雄 ¹ ・内田 明 ² ・安成 淳 ² (¹ 水産機構水大校, ² 山口水研セ)	B16 内部共生シアノバクテリアをもつハプト藻 <i>Chrysochromulina parkeae</i> のトランスクリプトーム解析 ○塚越 智夏 ¹ ・鈴木 重勝 ² ・中村 篤 ¹ ・萩野 恭子 ³ ・石田 健一郎 ⁴ (¹ 筑波大・院・生命環境, ² 国立環境研, ³ 高知大・理, ⁴ 筑波大・生命環境系)	
15:20	A17 宮崎県沿岸における藻場の長期的な変遷 ○荒武 久道・福田 紘士 (宮崎水試)	B17 非光合成性珪藻類葉緑体のゲノム進化 神川 龍馬 (京大院・人環, 京大院・地球環境)	
15:35	A18 磯焼け海域を模した実験区における海藻現存量の変化 ○石川 達也 ^{1,2} ・倉島 彰 ¹ (¹ 三重大院・生物資源, ² 尾鷲市役所)	B18 盗葉緑体性渦鞭毛藻 <i>Nusuttodinium aeruginosum</i> に取り込まれた共生クリプト藻の網羅的発現遺伝子解析 ○大沼 亮 ¹ ・廣岡 俊亮 ¹ ・兼崎 友 ² ・吉川 博文 ³ ・宮城 島 進也 ¹ (¹ 遺伝研・細胞遺伝, ² 東京農大・ゲノム解析セ, ³ 東京農大・バイオ)	

- 15:50 **A19** 三重県尾鷲湾の磯焼け海域におけるサガラメの初期再生過程
 ○加藤 葉¹・竹内 大介²・石川 達也^{1,2}・岩尾 豊紀³・倉島 彰¹ (¹三重大院・生物資源, ²尾鷲市役所, ³鳥羽市水産研究所)
- 16:05 **A20** 北海道阿寒湖で周期的に発生するマリモの大量打ち上げ—その機序と生態的な意義
 ○若菜 勇¹・岸 圭介¹・高山 肇¹・宇野 彩子¹・尾山 洋一¹・辻 ねむ² (¹釧路市教委・マリモ研, ²霧多布湿原センター)
- B19** 混合栄養性ユーグレノイド *Rapaza viridis* による *Tetraselmis* 葉緑体の“分割”利用
 ○丸山 萌¹・洲崎 敏伸²・柏山 祐一郎¹ (¹福井工大, ²神戸大)
- B20** 外洋域におけるピコシアノバクテリア捕食性プロテリストとそれらのクロロフィル代謝
 四本木 彰良¹・加山 基¹・木下 雄介²・民秋 均²・日高 清隆³・○柏山 祐一郎^{1,2} (¹福井工大, ²立命館大, ³中央水研)

16:30 – 17:30 **総会 (A 会場)**

19:00 – 21:00 **懇親会 (三翠園)**

3月25日(土) 午前の部

8:45 – 11:20 **口頭発表**

A 会場 (2号館 212 室)

- 8:45 **A21** 藻場生態系一次生産量と微細藻類群集の季節消長
 ○日野出 賢二郎¹・才津 真子¹・井上 幸男¹・寺田 竜太²・Gregory N. Nishihara³ (¹長崎大・院・水環, ²鹿児島大・連農, ³長崎大・環シナ海セ)
- 9:00 **A22** 千葉県館山市坂田地先における紅藻スギノリの生長と消失要因
 ○早川 雄飛・川田 健太・町田 一真・山野 旬郎・秋田 晋吾・藤田 大介 (海洋大・院・応用藻類)
- 9:15 **A23** 山口県日本海側で採集された紅藻アマノリ類の生活史について
 ○阿部 真比古¹・村瀬 昇¹・玉城 泉也²・藤吉 栄次²・小林 正裕³・菊地 則雄⁴ (¹水産機構水大校, ²水産機構西海水研, ³水産機構中央水研, ⁴千葉県博海博)
- 9:30 **A24** 大型アマノリの効率的タンク生産研究
 ○青柳 大輔¹・平岡 雅規²・蜂谷 潤³・朱文栄³ (¹高知大・院・理, ²高知大・総研セ, ³高知大・院・黒潮)
- 9:45 **A25** 廃水を用いた褐藻類 *Sargassum macrocarpum* の生長と栄養塩吸収特性の評価
 ○大竹 正弘¹・土屋 健司²・Gregory N. Nishihara³・井上 幸男⁴・明戸 剛⁵・伊賀 剛⁶・戸田 龍樹¹ (¹創価大・院・工, ²創価大・理工, ³長崎大・環東シナ海セ, ⁴長崎大・院・水環, ⁵太平洋セメント・株, ⁶新上五島町役場)

B 会場 (2号館 222 室)

- B21** 系統的に独立な緑色渦鞭毛藻における代謝系進化パターンの類似性とその進化的背景
 ○松尾 恵梨子¹・高橋 和也²・皿井 千裕³・岩滝 光儀²・稲垣 祐司⁴ (¹筑波大院・生命環境, ²東京大・アジアセンター, ³山形大院・理工, ⁴筑波大・計算科学センター)
- B22** 緑色有殻渦鞭毛藻 *Oxytoxum* sp. の葉緑体微細構造と系統
 ○高橋 和也¹・Sandric Chee Yew Leong²・福代 康夫¹・岩滝 光儀¹ (¹東京大・アジアセンター, ²Tropical Marine Science Institute, National University of Singapore)
- B23** Character Evolution within the genus *Testudinium* (Dinophyceae)
 ○Pinto Sohail Keegan¹・Ryuta Terada²・Takeo Horiguchi³ (¹Graduate School of Science, Hokkaido University; ²United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University; ³Faculty of Science, Hokkaido University)
- B24** 渦鞭毛藻細胞内における DNA ウイルス共存の可能性
 ○高野 義人¹・長崎 慶三¹・外丸 裕司² (¹高知大院黒潮, ²瀬戸内水研)
- B25** ところでウイルス君、君の宿主は誰なのかな？—淡水生態系内の共存性ウイルス探索—
 ○長崎 慶三¹・高野 義人¹・布浦 拓郎²・浦山 俊一² (¹高知大院黒潮, ²JAMSTEC)

10:00–10:05

休憩

- 10:05 **A26** 低リン濃度海域における持続的なリン施肥が褐藻類ノコギリモクの幼体に与える生長促進効果
 ○井上 幸男¹・明戸 剛²・伊賀 剛³・和田 実⁵・土屋 健司⁴・戸田 龍樹⁴・Gregory N. Nishihara⁵ (¹長崎大・院・水環, ²太平洋セメント・株, ³新上五島町役場, ⁴創価大・理工, ⁵長崎大・環東シナ海セ)
- B26** 海産珪藻 *Chaetoceros tenuissimus* はウイルスとともに西日本沿岸域に広く分布する
 ○外丸 裕司¹・木村 圭²・豊田 健介³ (¹水産機構・瀬水研, ²佐賀大学・低平沿岸セ, ³日歯大・生物)

- 10:20 **A27** ワカメ配偶体の生長と成熟に対する光質、光量ならびに水温の影響
 ○佐藤 陽一¹・及川 浩生²・最上谷 美穂¹・兼松 宏一³・中 裕之³・粥川 真²・柏谷 伸一²・小野 克徳¹ (¹ 理研食品, ² パナソニック, ³ SiM24)
- 10:35 **A28** 紫外線を活用した高品質海藻種苗生産プロセスの検討
 ○藤井 貴仁¹・三木 理²・奥村 真子²・小杉 知佳³・加藤 敏朗³ (¹ 金沢大・院・機械科学, ² 金沢大・理工・RSET, ³ 新日鐵住金 (株))
- 10:50 **A29** 褐藻クロモの育成条件の探索及び海中養殖への試み
 松村 航 (環日本海環境協力センター)
- 11:05 **A30** 地下海水を用いた紅藻 *Agardhiella subulata* および藻食性巻貝トコブシの複合養殖
 ○岡 直宏¹・篠本 聖太²・小川 純司³・團 昭紀¹・齋藤 稔¹・浜野 龍夫¹ (¹ 徳島大院・生物資源, ² 徳大・総科, ³ 開栄水産有限会社)
- B27** 冬季有明海における珪藻 *Skeletonema* 群集の種動態解明
 ○木村 圭¹・松原 賢²・吉武 愛子・堀 恭子・三根 崇幸³ (¹ 佐賀大低平沿岸セ, ² 水産機構瀬戸水研, ³ 佐賀有明水振セ)
- B28** 海産微小珪藻 *Chaetoceros tenuissimus* は休眠期を有する
 ○角田 成美¹・山口 晴生¹・權田 泰¹・足立 真佐雄¹・石井 健一郎²・外丸 裕司³ (¹ 高知大・農, ² 京大・地球環境学堂, ³ 水産機構・瀬水研)
- B29** 環境 RNA を利用した真核微生物の群集構造解析
 ○矢吹 彬憲・浦山 俊一・高木 善弘・横川 太一・杉江 恒二・松葉 史紗子・西 真郎・荒井 渉・平井 美穂・藤倉 克則・布浦 拓郎 (海洋研究開発機構)

11:20 – 12:20 昼休み

3月25日(土) 午後の部

12:20 – 13:20 ポスター発表 (偶数番号)

C会場 (3号館 310室) P01 ~ P50

- P02** 日本産 *Siphonocladus rigidus* の形態及び細胞質分裂
 ○小山 知洋・鈴木 秀和・田中 次郎 (海洋大・院・藻類)
- P04** 房総半島のサガラメ *Ecklonia arborea* (Areschoug) M.D.Rothman, Mattio & J.J.Bolton
 宮田 昌彦 (千葉県立中央博物館)
- P06** 富士北麓、精進湖におけるフジマリモの分布水深と生育量
 ○芹澤 如比古¹・中村 誠司²・上嶋 崇嗣²・芹澤 (松山) 和世¹ (¹ 山梨大・教育, ² 山梨大・院・教育)
- P08** 不漁が深刻な四万十川産スジアオノリの季節消長と環境要因
 ○辻 祐人¹・平岡 雅規² (¹ 四万十市, ² 高知大・総研セ)
- P10** 侵入種ミナミアオサと普通種アナアオサの抗酸化機構の比較
 ○中村 方哉^{1,2}・矢部 徹²・玉置 雅紀^{1,2}・有田 康一²・石井 裕一³・中嶋信美^{1,2} (¹ 筑波大院・生命, ² 国環研, ³ 都環研)
- P12** Bayesian inference of environmental effects and human-induced disturbance to seaweed in Japan
 ○陳 虹諺・長井 敏 (中央水産研究所)
- P14** 淡路島沿岸の潮間帯における海藻植生モニタリング調査に関して
 ○羽生田 岳昭・牛原 康博・鈴木 雅大・川井 浩史 (神戸大・内海域セ)
- P16** 富士北麓、精進湖における水生植物相とその分布範囲及び現存量
 ○中村 誠司¹・上嶋 崇嗣¹・芹澤 (松山) 和世²・芹澤 如比古² (¹ 山梨大・院・教育, ² 山梨大・教育)
- P18** 奄美大島産リュウキュウアマモの光合成に対する光と温度の影響
 ○島田 菜摘¹・Gregory N. Nishihara²・遠藤 光¹・寺田 竜太³ (¹ 鹿大・水, ² 長大・環東シナ海セ, ³ 鹿大・院・連農)
- P20** オキナワモズクの光合成に対する光と温度の影響
 ○福元 李果¹・Gregory N. Nishihara²・遠藤 光¹・寺田 竜太³ (¹ 鹿大・水, ² 長大・環シナ海セ, ³ 鹿大・院・連農)
- P22** 館山産オオバモクの食害の実態と再生
 ○山野 旬郎・川田 健太・早川 雄飛・町田 一真・秋田 晋吾・藤田 大介 (海洋大・院・応用藻類)
- P24** 葉状部を切除した城ヶ島産褐藻カジメの再生
 ○長尾 優作¹・岡部 久²・藤田 大介¹ (¹ 東京海洋大・応用藻類, ² 神奈川水技セ)
- P26** 岐阜県土岐市周辺における希少カワモズク類の分布
 ○津田 格¹・上杉 毅²・楯 千江子³ (¹ 岐阜県立森林文化アカデミー, ² 赤津自然観察会, ³ シデコブシと自然が好きな会)
- P28** 四国西南部の車軸藻類相
 ○藤原 陽一郎¹・加藤 将²・小林 真吾³ (¹ NPO 法人愛媛生態系保全管理, ² WIJ, ³ 愛媛県総合科学博物館)
- P30** シャジクモの生態型の進化に関する研究
 ○坂山 英俊¹・宮田 大輔¹・加藤 将²・西山 智明³ (¹ 神戸大・院・理, ² WIJ, ³ 金沢大・学際セ)
- P32** 藻場生態系における総一次生産量 (GEP) の季節消長
 ○才津 真子¹・木村 竜太郎²・日野出 賢二郎¹・井上 幸男¹・松尾 彩音¹・寺田 竜太³・Gregory N. Nishihara⁴ (¹ 長崎大・院・水環, ² 長崎水試, ³ 鹿児島大・院・連農, ⁴ 長崎大・環東シナ海セ)

- P34** 宍道湖に大量繁茂するシオグサ類の成長と光合成に対する水温の影響
 ○原口 展子¹・早坂 裕也²・國井 秀伸¹ (¹島根大・汽水セ, ²島根大院・生資)
- P36** メタバーコーディング解析を用いた宮城県女川町御前湾産ユキノカサガイ殻表面の潜在的海藻植生の検出
 ○村澤 博基¹・近藤 秀城¹・漆崎 慎吾⁴・高野 義人^{2,3}・藤田 大介¹・長井 敏² (¹東京海洋大学・院・応用藻類, ²中央水研, ³高知大学, ⁴アクシオヘリックス)
- P38** 藻類を教材としたアクティブ・ラーニングの実践 —大森 海苔のふるさと館での取り組み—
 ○滝本 彩佳¹・小山 文大¹・藤塚 悦司²・鈴木 秀和³ (¹認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会, ²大田区立郷土博物館, ³海洋大・院・藻類)
- P40** 黄緑藻 *Tetraedriella jovetii* (Bourr.) Bourr. の多形性と生活環
 ○高橋 音葉¹・宮本 和季¹・小黒 健太郎¹・須谷 昌之¹・大谷 修司² (¹島根県立出雲高校・自然科学部, ²島根大・教育)
- P42** 黄緑藻 *Tetraedriella regularis* (Kütz.) Fott の多形性と生活環
 ○熊谷 健隆¹・持田 歩¹・須田 拓人¹・須谷 昌之¹・大谷 修司² (¹島根県立出雲高校・自然科学部, ²島根大・教育)
- P44** 南極昭和基地周辺の土壌モニタリング地点より分離された土壌藻類
 ○大谷 修司¹・栗山 弘介²・伊村 智^{3,4}・神田 啓史³ (¹島根大・教育, ²島根大・生資, ³極地研, ⁴総研大)
- P46** 沖縄県塩屋湾産タマスジケイソウ属 *Luticola* の形態分類学的研究
 ○数野 渚¹・鈴木 秀和¹・後藤 敏一²・松岡 孝典³・南雲 保³・田中 次郎¹ (¹海洋大・院・藻類, ²近畿大・医・基礎医, ³日歯大・生物)
- P48** 繊毛虫ロクソデスから得られた共生藻株について
 ○保科 亮¹・早川 昌志²・洲崎 敏伸² (¹長浜バイオ大バイオサイエンス, ²神戸大理)
- P50** 琉球大学構内の千原池における光合成 *Euglena* 類について
 ○與那城 由尚・須田 彰一郎 (琉大・理)

D 会場 (3 号館 311 室) P51 ~ P88

- P52** Diversity assessment of coral endolithic cyanobacteria using *tufA* metabarcoding
 ○Handung Nuryadi¹・Thomas Sauvage²・William E. Schmidt²・Suzanne Fredericq²・Shoichiro Suda³ (¹Graduate School of Engineering and Science, University of the Ryukyus, ²Department of Biology, University of Louisiana at Lafayette, ³Faculty of Science, University of the Ryukyus)
- P54** *Okeania* sp. from the shore region of Kyan, Itoman, Okinawa (Cyanobacteria)
 ○Philipp Uli Basa Hutabarat¹・Xuan Hoa Nguyen¹・Handung Nuriyadi¹・Toshiyuki Teruya²・Shoichiro Suda³ (¹Graduate School of Engineering and Science, University of the Ryukyus, ²Faculty of Education, University of the Ryukyus, ³Faculty of Science, University of the Ryukyus)
- P56** 日本固有の両生類クロサンショウウオの卵に共生する単細胞緑藻
 ○武藤 清明¹・西川 完途¹・神川 龍馬^{1,2}・宮下 英明^{1,2} (¹京大・院人環, ²京大・院地環)
- P58** 日本新産 *Trentepohlia abietina* (スミレモ科, アオサ藻綱) の形態と系統
 ○溝淵 綾¹・半田 信司¹・中原・坪田 美保²・坪田 博美³ (¹広島県環境保健協会, ²千葉中央博・共同研究員, ³広島大・院・理)
- P60** 珪藻群集の分析に使えるいくつかの統計解析法
 ○大塚 泰介¹・富 小由紀^{2,3}・石川 俊之³ (¹琵琶湖博物館, ²たんさいぼうの会, ³滋賀大・教育)
- P62** 北海道周辺海域におけるパルマ藻群集の現存量および種組成
 ○一宮 睦雄¹・山田 和正¹・中川 至純²・西野 康人²・桑田 晃³ (¹熊本県大・環境共生, ²東農大, ³水産機構・東北水研)
- P64** ラビリンチュラ類の定量 PCR 法による現存量推定の検討
 ○浜本 洋子^{1,2}・庄野 孝範³・本多 大輔^{3,2} (¹甲南大・院・自然科学, ²甲南大・統合ニューロ研, ³甲南大・理工)
- P66** 南日本沿岸域における渦鞭毛藻 *Prorocentrum* 属底生種の種組成と分布 — 新奇 *clade/subclade* の報告 —
 ○西村 朋宏¹・阿部 翔太¹・有光 慎吾¹・齋藤 一貴¹・船木 紘¹・Wittaya Tawong^{1,2}・田中 幸記³・柳田 一平⁴・平岡 雅規³・鈴木 敏之⁵・足立 真佐雄¹ (¹高知大農, ²Naresuan Univ., ³高知大海洋研, ⁴NPO 法人 INO, ⁵水産機構中央水研)
- P68** 祖先的渦鞭毛藻 *Oxyrrhis marina* の染色体の 3D 構造解析
 ○洲崎 敏伸¹・福田 康弘²・ソチホン³・村田 和義³ (¹神戸大学・院理, ²東北大学・院農, ³生理学研究所)
- P70** ミドリゾウリムシに共生する *Chlorella variabilis* の細胞壁の解析
 ○樋口 里樹¹・ソチホン²・洲崎 敏伸¹ (¹神戸大学理学研究科, ²生理学研究所)
- P72** 有毒渦鞭毛藻 *Dinophysis fortii* の盗葉緑体における無機炭素輸送機構の解明
 ○本郷 悠貴・長井 敏 (国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所)
- P74** 過酷な環境で生育する微細藻類の単離と有用な生理代謝の解析
 ○豊島 拓樹・小俣 翼・田邊 義和・小飯田 えり・佐藤 光・古川 綾恵・吉田 梨沙子・川崎 信治 (東京農業大学バイオサイエンス学科)
- P76** 熱帯産と温帯産の炭化水素産生藻 *Botryococcus braunii* の温度耐性の比較
 ○西川 鈴音¹・平野 昂太郎¹・Ardianor A²・Segah H²・Sulmin G²・岡田 茂³・河村 耕史¹ (¹大阪工大・院・環境, ²インドネシア・パラカンカラヤ大学, ³東大・院・農学生命)
- P78** サンゴ *Acropora digitifera* に共生する褐虫藻のオルガネラゲノムの多様性
 ○將口 栄一・善岡 祐輝・新里 宙也・佐藤 矩行 (沖縄科学技術大学院大学マリンゲノミクスユニット)
- P80** 霞ヶ浦で見られるシアノバクテリアの 16S rRNA 遺伝子アンプリコンによる群集構造解析
 ○山口 晴代¹・片岡 剛文²・辻 彰洋³・中川 恵¹・河地 正伸¹ (¹国立環境研究所, ²福井県立大・海洋生物資源, ³国立科学博物館)

- P82** 緑藻 *Chlamydomonas reinhardtii* 発現ベクター pSI103 によるオイル生産性藻類 *Botryococcus braunii* (Race B) の遺伝子組み換え体作成の試み
 ○川瀬 健志¹・船戸 章充¹・榎本 ゆう子^{1,2}・榎本 平^{1,2} (¹神戸大・院・人間発達環境学, ²G> 社)
- P84** 炭化水素産生藻 *Botryococcus braunii* の転写活性を有するトランスポゾン探索
 原 拓也¹・小松原 直也¹・岡田 茂²・河村 耕史¹ (¹大阪工大・院・環境, ²東大・院・農学生命)
- P86** 赤色パルス光照射下におけるシアノバクテリアによるケトンの不斉還元
 ○伊藤 賢一¹・村上 雅彦¹・青山 忠¹・中村 薫² (¹日大理工, ²神大発達科学)
- P88** NBRP 藻類 第3期までの活動と今後の展開
 ○河地 正伸¹・山口 晴代¹・志村 遥平¹・川井 浩史²・羽生田 岳昭²・山口 愛果²・寺内 真²・中山 剛³・石田 健一郎³・小亀 一弘⁴ (¹国立環境研究所, ²神戸大学内海域セ, ³筑波大学生命環境系, ⁴北海道大学理学研究院)

13:30 – 14:45 **口頭発表**

A 会場 (2 号館 212 室)		B 会場 (2 号館 222 室)	
13:30	A31 電顕 3D とフリーズフラクチャーで見るクロレラのオイル蓄積の動態とオートファジー ○大田 修平 ¹ ・関田 諭子 ² ・山崎 誠和 ¹ ・竹下 毅 ¹ ・平田 愛子 ³ ・奥田 一雄 ² ・河野 重行 ¹ (¹ 東京大・院・新領域・先端生命, ² 高知大・院・黒潮圏, ³ 東京大・院・新領域・バイオイメージングセンター)	B30 植物プランクトン単一種を摂餌した穴道湖産ヤマトシジミの食性研究 ○大木 智世 ¹ ・南里 敬弘 ² ・勢村 均 ³ ・大谷 修司 ⁴ (¹ 島根大学大学院教育学研究科, ² いであ(株), ³ 島根水技セ, ⁴ 島根大学教育学部)	
13:45	A32 ヘマトコッカス藻の細胞内色素分布の可視化と光照射で局在変化する色素とオイルの動態 森田 彩 ¹ ・大田 修平 ¹ ・関田 諭子 ² ・大貫 慎輔 ¹ ・平田 愛子 ³ ・奥田 一雄 ² ・大矢 禎一 ¹ ・河野 重行 ¹ (¹ 東京大・院・新領域・先端生命, ² 高知大・院・黒潮圏, ³ 東京大・院・新領域・バイオイメージングセンター)	B31 化学物質に対するユーグレナの誘電性質の解析 ○陳 林・洲崎 敏伸 (神戸大学・院理)	
14:00	A33 海産珪藻 <i>Phaeodactylum tricornutum</i> の主要油滴タンパク質 StLDP の過剰発現株を用いた機能解析 ○米田 広平 ¹ ・吉田 昌樹 ² ・鈴木 石根 ² ・渡邊 信 ² (¹ 筑波大学大学院生命環境科学研究科, ² 筑波大学生命環境系)	B32 アオコ形成ラン藻 <i>Microcystis aeruginosa</i> の汽水適応株の生理と多様性 ○田辺 雄彦 ¹ ・程木 義邦 ² ・多田 清志 ³ ・佐野 友春 ⁴ ・渡邊 信 ³ (¹ 筑波大・生命環境, ² 京大・生態研, ³ 筑波大・ABES, ⁴ 国環研)	
14:15	A34 反転しない群体性ボルボックス目アストレフォメネにおける <i>InvA</i> オースログの同定と発現・局在解析 ○山下 翔大 ¹ ・新垣 陽子 ¹ ・豊岡 博子 ¹ ・西井 一郎 ² ・野崎 久義 ¹ (¹ 東京大・院理, ² 奈良女子大・理)	B33 UV-A 単色光で生育する単細胞緑藻とその UV-A 耐性の仕組みの推定 ○有保 秀徳 ¹ ・神川龍馬 ^{2,3} ・宮下英明 ^{2,3} (¹ 京大・総人, ² 京大・院人環, ³ 京大・院地環)	
14:30		B34 鉄鋼排水活用および混合栄養培養方式による海産性クロレラの効率的培養の検討 ○山口 航平 ¹ ・三木 理 ² ・奥村 真子 ² ・小杉 知佳 ³ ・加藤 敏朗 ³ (¹ 金沢大・院・機械科学, ² 金沢大・理工・RSET, ³ 新日鐵住金 (株))	